

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.145 2006.7.1

過去・現在・未来。今ここに明かされる 博物館100年の軌跡と未来への第一歩！



松本市立博物館開館100周年記念

特別展『博物館100年モノ語り』

- ◇会 期 平成 18年 7月 29日(土)～9月 24日(日)
- ◇会 場 松本市立博物館
- ◇観 覧 料 大人 300(240)円・小中学生 150(120)円
()は 20名以上の団体料金

記念講演会「市民とミュージアム—明日への展望—」

- ◇日 時 平成 18年 9月 2日(土)
午後 1時 30分から 3時 30分
- ◇講 師 岡部 幹彦氏(文化庁文化財部美術品登録調査官)

※その他の関連事業は 4 ページに掲載

- 左上：明治39年(1906)に開館した「明治三十七、八年戦役記念館」
- 右上：昭和13年(1938)に二の丸に移転した「松本記念館」
- 左下：昭和30年代の「松本市立博物館」
- 右下：昭和43年(1968)に新築開館した「日本民俗資料館」

もくじ

- 誌上博物館◇明治三十七、八年戦役記念館に学ぶ……………2、3
- 博物館のノートから◇博物館100年モノ語り・その3……………3
- 博物館TOPICS◇講演会
「偶像に込められた祈りと願い」を開催……………4
- ガイドコーナーはんてんぼく……………4

松本市立博物館の主な足跡

— 明治39年から現在までの歴代建物・移転・改称の流れ —

館名	所在地	年月日	博物館のできごと
時局室	本町	明治38.10.23(1905)	松本尋常高等小学校男子部に時局資料および各種寄贈資料を陳列するため時局室を設ける。(コラム1)
明治三十七、八年戦役記念館		明治39. 4. (1906)	三村寿八郎校長の指示により時局室の代替として校地内で別棟建設に着手する。
		9.21	明治三十七、八年戦役記念館が竣工し、開館式をおこなう。
		9.22	明治三十七、八年戦役記念館を一般に開放、この日1,038人の来館がある。
		明治44. 8.11(1911)	松本城下町模型製作に着手、12月27日に完成する。
		明治45. 6. 2(1912)	『明治三十七、八年戦役記念館一覽』(明治39初版)を『明治三十七、八年戦役記念館』として増補する。
松本記念館		大正 6. 7. 8(1917)	記念館修繕工事を実施する。
		大正 8. 2. (1919)	『明治三十七、八年戦役記念館』を『松本記念館』として増補し、以後昭和12年(18版)まで増補を重ねる。
		昭和 3.10. (1928)	開智部改築に伴い表門付近へ移転する。
		昭和 6. 6. 1(1931)	松本市の管理となる。
	昭和12. 9. (1937)	二の丸の旧松本中学校校舎に移転のため、改修工事に着手する。	
松本記念館	二の丸	昭和13. 4. (1938)	河野齡蔵、新館のロックガーデン建設に着手する。(コラム2)
		4.19	松本記念館使用条例を制定する。
		9.17	松本記念館として二の丸に有料開館する。観覧料は10銭(松本城10銭、共通15銭)。
		昭和18. 4. (1943)	松本青年学校の移転計画により、記念館の天守閣移転が決定されるが、中止となる。
		12.	記念館建物の一部を青年学校が使用する。
		昭和19. 4. 1(1944)	記念館建物に松本市立女子商業学校が併設される。
		9.	再び移転計画が持ち上がるがとりやめとなる。
		昭和20. 5.22(1945)	記念館を閉館し、収蔵品の疎開を始める。
		9.	終戦とともに疎開品の戻しが始まる。同時に郷土博物館および山岳博物館、岳麓林園設置を巡って池上隆祐、一志茂樹、岡 茂雄らと市との協議が繰り返される(昭和22年まで続く)。
		昭和21.10. 1(1946)	一般公開を再開する(12月3日より日計簿を再開)。
松本博物館	二の丸	昭和22. 1.28(1947)	松本史談会「博物館設置二開スル意見書」を市議会に提出する。
		4. 1	松本記念館を改め松本博物館となる。
		7. 1	一志茂樹が館長に就任し、地蔵清水への移転準備の指揮にあたる。
		7.19	閉館し、移転作業と資料整理にとりかかる。
松本市立博物館	地蔵清水	7.24	地蔵清水の旧松本市立中学校校舎に移転が完了する。
		昭和23. 2.11(1948)	山岳・民俗・考古・歴史・教育の5部門をもつ総合博物館として松本市立博物館が開館する。
		4.23	松本市立博物館条例を制定し、松本城の管理(昭和33年12月まで)を職務に加える。
		昭和27. 1. (1952)	市立博物館所在の土地が日本銀行移転用地として売却される。
		1.31	中信美術会、松本史談会(2月17日)博物館移転新築の陳情を行う。
		4.17	中山考古館とともに文部省告示により博物館相当施設の第一次指定を受ける。
		7.21	博物館法により県内初の登録博物館に登録される。
		11. 3	二の丸への再移転が完了し開館、記念式典を挙げる。
		12.26	松本市立博物館条例を改正する。
		昭和28. 4. 1(1953)	博物館庶務規定を定め、総務、普及、学芸、公園の四室を置く。
松本市立博物館	二の丸	8.	小動物園計画の一環として熊舎を設置する。(コラム3)
		10.	第4回信濃講座を開催する。
		12.11	長野県博物館研究協議会秋季大会を松本市立博物館で開催する。
		昭和32. 9.22(1957)	「松本の歴史展」(博物館開館50周年記念・表紙掲載写真を参照)を開催する。
		昭和33.12.24(1958)	城郭係(昭和30から設置)を廃し、松本城管理事務所を設置する。
		昭和36. 3.31(1961)	重要民俗資料収蔵庫が竣工する。
		昭和41. 4. 1(1966)	博物館を(財)日本民俗資料館に寄附する。(分館、附属施設、重要民俗資料収蔵庫、収蔵資料の一部はのぞく)
		8.	新館建設のため休館、小動物園を蚕糸公園に移転する。
		昭和42.10.10(1967)	日本民俗資料館竣工、18日竣工式を挙げる。
		昭和43. 4.20(1968)	日本民俗資料館が開館する。(コラム4)
日本民俗資料館	二の丸	昭和55. 6. 1(1980)	時計博物館(昭和49年から)を廃し、日本民俗資料館内に展示替える。
		昭和56.10. 1(1981)	松本城との共通券を主体とした料金体系に切り替える。
		昭和58.10. 1(1983)	(財)日本民俗資料館を(財)松本市教育文化振興財団に発展解消する。
		昭和59. 8. 1(1984)	館ニュース「あなたと博物館」を創刊する。
		平成11. 9.21(1999)	9月21日を「松本市博物館の日」に制定する。
		平成12. 6. (2000)	「松本まるごと博物館構想」を策定する。
		平成14. 4.20(2002)	松本市美術館の開館により、美術展示を廃止する。
		9. 1	松本市時計博物館の開館により、古時計展示を廃止する。
		平成15. 3. 8(2003)	常設展示を全面的にリニューアルする。
		平成17. 4. 1(2005)	日本民俗資料館を解消、施設を松本市に寄附し、再び松本市立博物館とする。
平成18. 7.29(2006)	博物館開館100周年記念特別展「博物館100年モノ語り」を開催する。		
9.21	博物館開館100周年記念式典を挙げる。		



明治39年(1906)9月～「明治三十七、八年戦役記念館～松本記念館」松本市役所発行「松本」(大正15年・1926発行)に掲載された写真です。(新築)



昭和13年(1938)9月～「二の丸に開館した松本記念館」書類などに登場する館名は、この年の途中まで「紀」念館、「記」念館の両方が混在していますが、この写真の表紙では「記」が使われています。(旧松本中学校校舎)



昭和22年(1947)7月～「地蔵清水の松本市立博物館」新聞記事に掲載された昭和27年当時の博物館です。(旧松本市立中学校校舎)



昭和27年(1952)11月～「二の丸に開館した松本市立博物館」再び二の丸の旧松本中学校講堂(本館)校舎(別館)に戻りました。(旧松本中学校講堂・校舎)



昭和43年(1968)「日本民俗資料館」4月20日に多数の来賓を迎え開館式が行われました。(新築)

松本市立博物館は明治39年(1906)の誕生から100年間、そのときどきの世情に左右されながらも、地域住民の文化的欲求に応え、移転や改称を経て何度かの住み替えをおこないました。これまでの建物と移転の経過について年表を作成し、現在は姿を変えてしまった出来事についてコラムにしてみました。

コラム1

明治38年(1905)10月23日 一時局室の開設

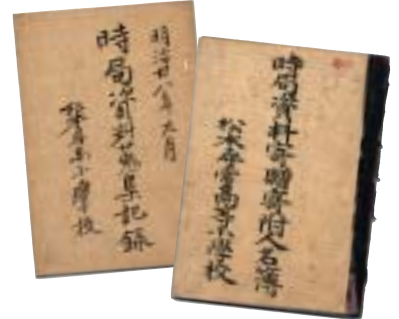
日露戦争に出征した松本町出身のある兵士が敵兵の肩章や軍票などを小学校に参考品として贈ったことがきっかけになり、次々と資料の寄附を受けました。明治三十七、八年戦役記念館の前身となった時局室が、それらの資料活用の目的をもって松本尋常高等小学校に約1年間開設されました。



松本尋常高等小学校校舎(旧開智学校)



寄せられた資料(水雷・地雷/清国提督旗/独将校帽/水筒/鍋)



明治38～明治42年(1905～1909)の記録簿『時局資料蒐集記録』と『時局資料寄贈寄附人名簿』

コラム2

昭和14年(1939)6月完成 —記念館併設ロックガーデン—

高山植物研究では第一人者であった河野齢蔵により、松本城太鼓門跡南側に築造されましたが、現在はその面影を見ることはできません。中部山岳の高山植物240種、北海道樺太・千島の高山植物30種も育成されたといえます。河野の手がけたロックガーデンは松本記念館をはじめ9ヶ所あるといわれます。



コラム4

昭和43年(1968)4月20日 —日本民俗資料館開館式—

昭和41年4月1日に(財)日本民俗資料館が設立され、松本市立博物館は日本民俗資料館となりました。降旗徳弥財団理事長(当時)あいさつのもと、開館式が盛大に挙行されました。「民俗資料館」の呼び名で30余年間にわたり親しまれましたが、平成17年4月1日に再び松本市立博物館となりました。



日本民俗資料館開館式

コラム3

昭和27～28年(1952～1953) —小動物園・熊のコロちゃん—

昭和27年末から飼育していた熊のコロスケの熊舎建設(昭和28年7月)を皮切りに、小動物園が整備されていきました。記事によれば、コロスケは「西穂高岳玄文沢上流産の純日本系子グマ」で、「生まれたばかりのところを捕えられて温泉ホテルに飼われ、人気を集めて」いました。



松岡文七郎市長がコロちゃんをみそめて小動物園へ招き、入園第一号となりました。その後、小動物園は昭和41年に蚕糸公園へ移転し、昭和53年には現在のアルプス公園小鳥と小動物の森が開園する礎となりました。



上:『博物館動植物園計画』部分 下:新聞記事『子熊のコロちゃん』

特別展「博物館100年モノ語り」公募コーナーから —『博物館の思い出』『わたしが描く未来の博物館』をテーマに—

公募作品紹介：『博物館の思い出』

①〈昭和6年(1931)生まれ・松本市在住・男性〉

私は子どもの頃、西堀町に住み田町小学校に通っていました。松本城の堀には鯉が泳ぎ、島には民家がありました。松本神社西の駐車場は原っぱで、子どもたちの遊び場でした。その頃(昭和10年代)博物館は、記念館と呼ばれていたのでしょうか。学校の帰りや休みの日に友達ち2~3人と遊びに行ったことを覚えています。記憶の糸を辿ってみますと、夏の一日、下駄ばきで入館料を払った覚えはありません。建物は古びた木造で廊下は板ばりでした。何が展示されていたかは覚えていません。小学生には展示を見るより、歩き回る方がおもしろかったのですから。場所は、今の博物館と同じ所だったのですね。松本城の本丸庭園は、その頃一般に開放されて、草野球などが行なわれていました。

②〈昭和12年(1937)生まれ・埼玉県狭山市在住・女性〉

毎年お盆には、松本に生まれ育った郷土へ帰省、お墓参り、実家を訪ね、妹、弟、家族と交流しています。この度、市立博物館の特別企画「博物館100年モノ語り」展示を拝覧、懐かしい思いで胸いっぱいです。開智小学校、丸ノ内中学校卒業、旧校舎が移転されていますが懐かしいです。地方都市でも現在の松本市立博物館は城下町にふさわしい場所にあり、建物面積、中味も全国上位、嬉しい限りです。これからも多くの人々に文化都市としても発展して行くことを知って頂くよう期待しております。松本市のますますの発展、お祈り申し上げます。

③〈昭和31年(1956)生まれ・塩尻市在住・男性〉

小学校低学年の時に古い博物館と動物園に見学に来たそうですが、動物園に熊がいたことしか覚えていません。鎌田中学校2年生の時に社会科で歴史を勉強し、社会科の担任の先生にすすめられて日本民俗資料館に見学に来ました。「小笠原展」を見学し、図録を買って帰りました。当時、一人一研究というのがあり、友人と「林城の研究」をやりました。図録を丸写しにした記憶があります。現在の図録に比べるととても薄いものですが、自分でお金を出して買った初めての博物館の本です。その図録は、35年を経た今でも自分の部屋の本棚に、表紙が破れていますが、あります。

④〈昭和38年(1963)生まれ・松本市在住・男性〉

小さい頃はお城の西側にあった遊園地の方が興味深かったのですが、成長するにしたがってお城や旧開智学校、博物館の催し等に興味がうつってきたのをおぼえ

ています。

⑤〈平成2年(1990)生まれ・静岡県三島市在住・女性〉

「采配をふるう」の意味は、かざってあった「采配」のことだったんですね。1つおこさんになりました。ただの慣用句だと思っていたものが、「ここからつながっているのかあ。」と思えて、歴史を感じちゃいました。博物館って、いいですね。たまっている宿題のことを一瞬忘れられました。高校大変だけど、がんばらなくちゃ。私たちは歴史の1番上に立ってるんだもんね。

⑥〈平成7年(1995)生まれ・京都府八幡市在住・男性〉

19世紀フランスの宝石のいっばいついた時計が一番深くこころに残りました。ほくは平成生まれなので昔のことはよく分からなかったのを、この博物館に来て少し分かるようになりました。これからもちがう博物館に行って、知識を深めようと思います。また機会があれば来たいと思います。ありがとうございました。

⑦〈平成10年(1998)生まれ・千葉県在住・女性〉

私は魚や鳥をみました。そうじきを見たり、かせきをみてたのしかった。よろいを見ておもしろかったです。はじめてむかしのものを見ていろんなことを学んでたのしかった。ほんとうにいい思い出になってよかったって思いました。また来ていろんなことを学びたいです。ありがとうございました。



公募作品展示風景

公募作品紹介：『わたしが描く未来の博物館』

①〈昭和59年(1984)生まれ・松本市在住・女性〉

「博物館都市構想」はヨーロッパでおこった“エコ・ミュージアム”と類似したものだと言われています。“松本まるごと博物館”も一言で簡単に言ってしまうと、それに類似し、松本全体が屋根のない博物館で、市民全員が学芸員だという考え方。松本市民なら知らない人は

少ないのではないかと思います。私は、市民全員が学芸員だという言葉にいまちピンと来ずにいましたが、先日、祖母に「この辺りは昔、〇〇町っていう名前だったんだよ。」とか、「この辺りには職人がたくさん住んでいて…」と、私が知らない松本をいろいろ教えてくれました。そこで私は初めてしっくりきた気がしました。祖母はこの時点で私にとっては“学芸員”なのです（もちろん、学芸員そのものとは言いきれないのですが）。このような小さな小さなことから、「松本まるごと博物館」とつながっていくのではないかと、私はその時、思いました。

②〈昭和59年(1984)生まれ・安曇野市在住・男性〉

学校ではなかなか勉強することができない松本地域のことを、博物館で知ることができればと思います。古代のことを知りたくなったら気軽に中山の考古博物館にいける、など、ハードでもソフトでも博物館がお互いに、また市民の側に近づいてくれればと思います。あと、気軽に「今日暇だし、博物館にでも行こうか。」ぐらいの気持ちで、博物館に行けるぐらいの楽しい場所になるといい

いなと思います。市民が「やっぱり松本っていいな」と思えるような、楽しみながらもいつのまにか勉強にもなる場所、そんなところに博物館がなってほしいと思います。

③〈昭和60年(1985)生まれ・松本市在住・男性〉

松本市にはテーマ別に数多くの博物館があります。しかし、交通の面、行きやすさからか市内中心にある博物館に人が集ってくるような気もします。そこで、松本まるごと博物館定期観光バスを特にゴールデンウィークや夏休みに出してツアーを行えば、もっと市内全域の博物館に親しみやすくなるだろうなあと思います！子どもの頃に楽しいと思った博物館は再び訪れてみようとするので、積極的にそれぞれの館での味わい、楽しさを伝えて、リピーターが増える博物館になっていくと思います。

—おことわり—

紙面の都合で、全員の方の「思い出」や「夢」を掲載することができませんでした。なお、記述は原文どおりとしましたが、明らかに誤っている箇所は修正してあります。

博物館100年モノ語り・その4 「第4回信濃講座」関係資料

「昭和二十八年十月／第四回信濃講座綴／松本市立博物館」と墨書きされた薄い文書綴りがあります。この講座は昭和28年(1953)10月23日、24日の2日間、県教育委員会と松本市立博物館の主催で開催したもので、稟議書には「民衆と共に在って育成発展した民俗資料は喪失の一途を辿っておる時、この民衆の生活の資料である民俗資料の保存と活用とが正しく行われることを目的」に開設すると書かれています。おそらくこの講座の開催は昭和25年に制定された文化財保護法で民俗資料が重視されたことと関係があり、戦後の混乱期も現代と同じく民俗資

料が危機に瀕した時代であったことがわかります。

講座内容は「民族資料の意義と価値」(最上孝敬・民族学研究所所員)、「民俗資料の保存と活用」(田原久・文部技官)、「民俗資料の収集の実際」(向山雅重・県文化財専門委員)、「民俗資料の保管と展示」(宮本馨太郎・立教大学教授)、「海外における民俗資料の保管活用状況」(岡正雄・都立大学教授)、「民俗資料と地方史研究」(一志茂樹・県文化財専門委員)とあり、講師陣の豪華な顔ぶれに圧倒されてしまいます。受講者は名簿によれば79人で、民俗学の大先達・故清沢芳郎や長野県民俗の会設立発起人のひとり・故仁科政視、県史民俗編纂委員・松本市史民俗編委員長を務め現在も活躍される小林経廣氏等々の名前がみえ、この講座がその後の県内の民俗資料の保存と活用に資したことは十分に想像できます。さらに、文化庁伝統文化課調査官も強い関心を寄せるほど、講座の開催と内容は日本民俗学史のなかでも高く評価されています。

博物館をめぐる環境が今日と異なるとはいえ、学史上に残る講座の開催は、100年の歩みのなかで特筆すべき博物館活動であったと位置づけられます。(館長補佐・学芸員 窪田雅之)



「第四回信濃講座綴」より
『第四回信濃講座テキスト民俗資料』 『松本市立博物館民俗資料陳列目録』

松本市立博物館開館100周年記念事業から ～平成18年9月24日(日)まで開催～

「窪田空穂記念館事業ポスター」展

窪田空穂記念館では、平成5年(1993)の開館以来窪田空穂を知っていただくための企画展や各種の事業を催してきました。今回はこれらの事業ポスターを展示しています。

開館当初は大岡信氏や現在短歌界で活躍中の歌人を講師に講演会を多く開いています。

本格的な企画展は平成7年の「日本アルプスと近代詩歌」からです。短歌のみならず詩や俳句、写真、登山用具などが並び普段と違う雰囲気の中で、改めて詩歌文学の良さを感じました。その後は収蔵資料の紹介や現代歌人の紹介を軸とした企画展を開催しています。



「窪田空穂記念館事業ポスター」展から

事業としては、平成9年の「空穂生誕120周年全国短歌大会・まつもと」が大きなきっかけとなり、短歌作品の募集やシンポジウムなどを行ってきています。また子ども達に短歌を創る楽しさを体験して欲しいとの願いから親子短歌教室を発展させ、平成15年から「松本の子どもの短歌」事業を始めています。

ポスターはもとより、チラシや図録、作品集なども展示しているため、会場では当時を懐かしむ声もきかれます。

(空穂記念館 学芸員 田川恵美子)

「考古博物館のあゆみ」展

開館20周年を迎えた考古博物館では、現地に開館する以前の写真を中心にパネル展を行っています。

考古博物館の歴史は、地元の中山小学校の一角に大正5年(1716)に開設された考古室にまでさかのぼり、昭和6年(1931)には中山考古館となりました。生活の中で見つかった土器などが集められてきました。

中山村が松本市に合併した後の昭和23年(1957)には、出土資料を展示する施設として新築され、三笠宮殿下をお招きして行われた落成式には、大勢の人が集まりました。

やがて、増大した資料を収蔵・展示する新たな施設が求められるようになり、昭和61年(1986)に、現在の松本市立考古博物館が開館しました。



「考古博物館のあゆみ」展から

一昨年のリニューアルを機に、考古学のテーマ館であると同時に、体験学習の拠点として、新たな歴史を刻んでいきます。

(考古博物館 学芸員 澤柳秀利)

「重文旧開智学校誕生生物語」展

重要文化財旧開智学校では今年開館100周年を迎えた松本市立博物館発祥の母体となった立場から本企画展を開催しています。

旧開智小学校校舎が昭和36年(1961)に重要文化財指定を受けることになったいきさつ、明治時代に開校された開智小学校の本館が、女鳥羽川沿いから現在地へ移転復原されるまでの経緯を解説文、写真パネル等で振り返っています。その他、過去に開催した特別展のパンフレット等から、教育博物館として歩んで来た姿をご覧ください。



「重文旧開智学校誕生生物語」展から

現在まで続く開智小学校の長い歴史の中で、大きな変革となった重文指定と校舎移転復原、その背景には何があったのか? この機会にぜひ知っていただければと思います。多くの方々のご来館をお待ちしています。

(旧開智学校 小林雄介)

月遅れの七夕 —七夕ほうとうサービス—

今年も月遅れの七夕にあわせて8月6日には馬場家住宅で、7日には市立博物館で七夕ほうとうサービスを行いました。松本地方独特の食べ方をする七夕のほうとうを食体験していただけるコーナーです。遠方から来館された方々は、松本の七夕のほうとうがどのようなものなのか試食し、初めての味を楽しんで帰られました。市立博物館ではこの日、ボランティアグループ・エムの会のメンバーたちが手作りしたほうとうを振る舞い、来館者の方々と触れ合いながら説明をしました。松本の七夕に食べるほうとうとは、一体どのような食べ物なのでしょう。



七夕ほうとうサービス風景(博物館1Fロビーにて)
未体験の方はまた次回、お待ちしております。

(博物館 学芸員 福富佳織)

「七夕人形のある風景」—昨年につづきまちを七夕一色に—

「まつもとの七夕2006」と題した各博物館施設による七夕コラボレーションを7月8日から8月20日まで行いました。会期中は、松本の伝統行事である七夕、とりわけ人形を飾る習俗について市民の皆様と博物館がともに考え、協働し、人形のある七夕風景をまちなかに再現する良い機会となりました。

各博物館施設では、松本市立博物館での季節展「七夕人形のある風景」、時計博物館の企画展「七夕と人形」、馬場家住宅の企画展「七夕人形展」風景展示、空穂記念館の「星に願いを……」を実施したほか、七夕人形と笹飾りを飾り、来館した多くの皆様へ人形を飾る松本の七夕について知っていただくことができました。

「七夕人形のある風景」の再現は博物館を飛び出して、市街地でも行われました。大名町では博物館で用意した七夕人形型のPR看板を商店



大名町の七夕風景

街が保有する31基のバナーフラッグポールに取り付け、通りに面した空きビルショーケース・ショーウィンドウギャラリーへ七夕人形を飾り付け、ほうとうなどの供え物や七夕笹飾りによる風景展示を行いました。市街地を訪れた市民はもとより、観光客にも人形を飾る松本の七夕に関心を持っていただける結果となりました。さらに、地元商店街の皆様には、店先への七夕人形の飾り付けをしていただき、「七夕人形のある風景」の再現に協力していただきました。地域の皆様の協力なくしては「七夕人

形のある風景」の再現はできなかったでしょう。

月遅れの七夕にあたる8月7日を中心に、「七夕人形作り講座」や、松本の七夕の伝統食であるほうとうの食体験講座など、松本の七夕体験ができる「七夕ほうとう



実習生も大活躍

サービス」を開催しました。博物館実習生によって行われた今年の「七夕人形作り講座」は、期間は4日間、場所ははじめて博物館から外へと繰り出して、松本市役所大手事務所観光情報センターでの出張講座も行いました。講座への参加者は延べ120人を越えて、多くの皆様に七夕人形作りを楽しんでいただきました。参加者の皆様が人形を作り終え、とても満足した笑顔を見せていたことが、この体験講座の成果を示しているように感じます。

「七夕人形のある風景」の再現が松本の中心市街地だけでなく、さらに広い地域で支持されていくことを望みます。その担い手が、出張展示を見たり体験講座へ参加したことをきっかけに関心を持った皆様であるならば幸いです。



上手に出来ました

(博物館 学芸員 一ノ瀬幸治)

特別展図録『博物館100年モノ語り』が好評です!

特別展「博物館100年モノ語り」の開催にあたり、松本市の博物館100年の歩みをコンパクトにまとめた図録を販売しています。地方の博物館としては珍しい先見性を持ち、地域住民の関心を惹きつけ支えられてきた足跡を紹介しています。

体裁/A4判 57ページ(カラー40ページ)

図版/本文137点のほかコラム図版多数

本文/I章 歴史 II章 コレクション

III章 未来へ コラム 5編

資料/松本市立博物館の変遷・年譜

展覧会開催一覧・有料入館者一覧・概要

価格/1,000円



『博物館100年モノ語り』

ガイドコーナー はんでんぼく

松本まるごと博物館行事予定ー9・10月

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

◆「子規忌」

期日 9/19(火)

◆バス見学会

「旧松本飛行場と周辺の文化財を訪ねて」

期日 10/15(日)

時計博物館から ☎0263-36-0969

◆講座「機械時計を作ろう」

期日 10/7(土)

講師 時計博物館技師

募集 小学校高学年親子及び中学生 10組程度

◆秋季特別公募展「わが家のお宝蓄音機展」

期間 10/14(土)～11/12(日)

◆レコードの日記念コンサート

期日 11/3(金)

内容 SPレコードコンサート

考古博物館から ☎0263-86-4710

◆企画展「中山の考古学」

期間 10/7(土)～11/26(日)

◆講座「勾玉づくり講座」

期日 11/4(土)

参加費 入門編材料費 200円

中級編材料費 300円

上級編材料費 400円

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

◆お茶席の会

期日 裏千家 9/17(日)

表千家 10/29(日)

参加費 300円(入館料を含む)

◆「古民家コンサート大正琴」

期日 10/8(日)

あとがき

松本市立博物館の歴史は、いよいよ100年の節目を目前にしています。これまでに収集した資料数は約10万5千点におよびますが、年間平均1千点を受け入れてきた単純計算になります。利用されてこそ価値ある資料ですので、近年は地道な資料データベース作りに各博物館施設と一丸となって臨んでいます。継続は力なり。そんな100年の来し方であったかと思えます。もちろん、将来も、です。(K.F)

◆しののめの道講座「牛伏寺とフランス式階段工」

期日 9/30(土)

◆バス見学会「宿場町をたずねて(奈良井宿ほか)」

期日 10/7(土)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

◆企画展「空穂と妻藤野ーその愛と悲しみー」

期間 9/30(土)～11/26(日)

◆空穂伝統こども教室「将棋の部」

期日 10/14(土)

場所 まつもと情報創造館(松本市和田)

◆空穂伝統こども教室「囲碁の部」

期日 10/21(土)

講師 日本棋院棋士藤澤一就八段

場所 窪田空穂記念館(生家)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

◆企画展「民衆の知恵と美 刺し子展」

期間 9/12(火)～11/5(日)

◆民芸くるま座学習会

期日 9/16(土) 午後1時～3時

第1部 講演「民藝の美にささげた丸山太郎の生涯」

講師 深澤賢一郎氏

第2部 みんなで民藝について学ぼう

助言者 荻原小太郎氏 深澤賢一郎氏

参加費 300円(入館料を含む)

◆「柳兼子レコードコンサート」

期日 10/29(日)

はかり資料館から ☎0263-36-1191

◆講座「はかりづくり講座」

期日 10/14(土)

参加費 棒ばかり 200円 バネばかり 500円

◆「今昔はかり展」

期日 11/3(金) ※無料開放します。

あなたと博物館 No.146

発行年月日 平成18年9月10日

編集・発行 松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <http://www.city.matsumoto.nagano.jp>

e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp